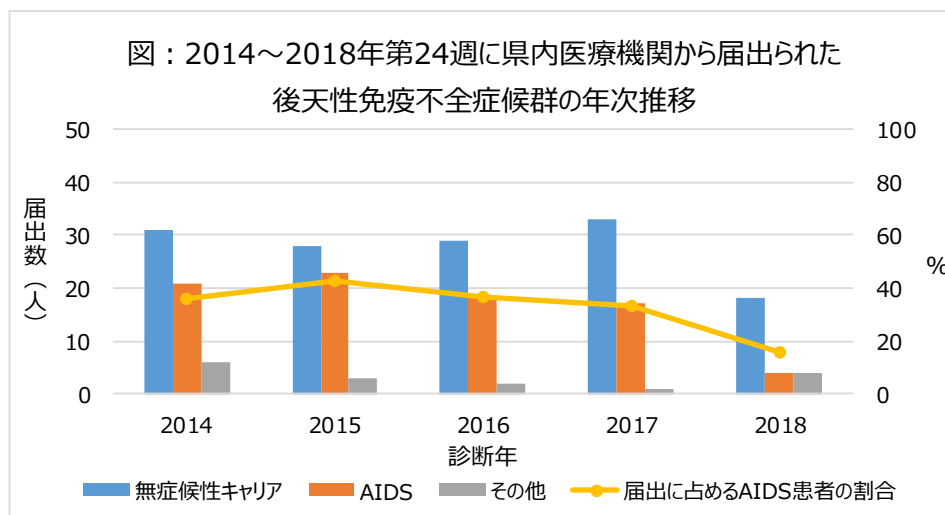


【今週の注目疾患】

【後天性免疫不全症候群】

2018年第24週に県内医療機関から4例の後天性免疫不全症候群の届出があり、2018年の累計は26例となった。過去同時期（2014年以降の各年の第24週までの届出数）と比較して同程度の届出数となっている。26例の内訳は無症候性キャリア18例、AIDS4例、その他4例であった。届出に占めるAIDS患者数の割合は15.4%となっている（図）。



性別は男性25例、女性1例であり、年齢中央値は36歳（範囲23～67歳）であった。感染推定地域は国内22例、国外1例、不明3例であり、国籍は日本25例、外国籍1例であった。4例のAIDS患者において記載のあった指標疾患（重複あり）は、真菌症（カンジダ症1例、ニューモシスティス肺炎1例）、腫瘍（原発性脳リンパ腫1例）、その他（反復性肺炎1例、HIV消耗性症候群1例）であった。

HIVは、感染しても自覚症状のない期間が数年から10年以上続くことがあり、HIV感染が成立しても受診・検査行動に結びつかない場合は、感染者として把握・報告されないため、実際のHIV感染者数は報告件数を上回っていると推察される。HIV感染症は適切な治療によりAIDSの発症を抑えることができることからHIV感染を早期に発見することが重要である。

千葉県内の各保健所では、居住地に関係なく、どこの保健所でも無料・匿名でHIV抗体検査を受け付けており、その日のうちに検査結果がわかる即日検査や、夜間検査も実施している。また、希望者には、性感染症（クラミジア・梅毒）、肝炎ウイルス（C型肝炎ウイルス（HCV）・B型肝炎ウイルス（HBV））の検査も同時に無料で行っている。下記の「千葉県内のエイズ等相談・検査、平成30年度検査実施日程」を参照し、積極的な活用をお願いしたい。

千葉県内のエイズ等相談・検査

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>